

2022年度 事業報告書

(2022年4月1日から2023年3月31日)

I. 概 況

2022年度における当協会（TEPIA）の事業については、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けることとなったが、昨年度リニューアルオープンした展示事業に加え、アウトリーチなども含めたデジタル活用の推進など、社会環境の変動に即した対応に努めてきた。今後、社会の感染症対応の状況に応じて、当協会の各事業の再構築に向けた対応も進めることとしている。

このような中であって、2022年度の収支を見れば、当協会は、財産運用については低金利環境が継続する中、為替変動等の運用リスクを注視しながら、運用先・通貨・期間等を考慮した分散投資に努め、適切な資産運用を実施してきた。その結果、2022年度決算においては、前年度実績を上回る運用収入を確保することができた。

事業収入については、新型コロナウイルス感染症拡大の長引く影響等による感染症拡大防止の観点から、年度を通じて貸会場の貸出を休止するとともに、スポーツジム及びレストランの賃貸について、先方の減収に伴う一時賃料減免要望に応じたことから前年に引き続き大幅な減収となった。非収益事業である展示事業等については、2022年3月22日に先端技術館をリニューアルし、学校団体や家族連れを中心に、来場者数は約1万人となった。また、オンラインと共に来館型によるプログラミング講座なども開催した。また地方におけるアウトリーチ事業も地域により、完全オンライン、リアル（対面）、ハイブリッド（オンラインとリアル併用）の3種類の開催方式により数か所で実施した。各事業実施にあたっては感染対策、セキュリティ対策を徹底するため、協会内の関連ルール作成や、必要設備等の導入も協会内で連携して実施した。

なお、神宮外苑地区整備計画に関しては、東京都、関係地権者等の動向を踏まえつつ、引き続きTEPIAとして必要な対応を行った。

その他の事業も含め、2022年度に実施した事業の主な内容は、以下のとおりである。

II. 実施事業の具体的な内容

1. 展示事業

(1) 展示のリニューアル実施

2022年3月22日リニューアルオープンした展示は、エリアを「プロログ」、「ショーケース」、「ワークショップエリア」、および「クリエイティブラボ」の4つに分け、若者とテクノロジーをつなぐ「CONNECT」をテーマに様々なコンテンツを展開した。

「プロログ」エリアにおいては、現代社会が抱える様々な課題や未来へのヒントをパネルやアニメーションで表し、先駆者からの「若者たちに送りたいメッセージ」映像も視聴可能とした。

メインの「ショーケース」エリアでは、様々な社会課題を解決するために開発された先端技術の数々をパネルや映像、実機等を用いて体験型展示を中心に展開した。

また、来館者のスマートフォンを使用して、各展示物の解説を聞くことが可能なデジタルアテンダントのサービスを実施した。

「ワークショップエリア」では、学生・家族連れを中心に楽しみながらロボットプログラミングを体験できるワークショップを開催し、夏休み以降は、低年齢向けのロボットプログラミング教材を自由に体験できるコーナーも設置した。

2階の「クリエイティブラボ」（下記4（1））ではものづくりに挑戦できる環境を整備した。

なお、新型コロナ感染防止の観点から、人数制限および徹底した感染対策を施した上で、一日3部の総入れ替え制の完全事前予約制の運営とした。また、2023年度に向けては、2022年キッズデザイン賞TEPIA特別賞を展示変更し、「若者たちに送りたいメッセージ」映像1名追加を行った。

(2) デジタル TEPIA の運営継続

2021年度前期に開始したデジタルTEPIA(オンライン上での展示)は、「先駆者からのメッセージ」の追加、「キッズデザイン賞表彰」における“TEPIA特別賞”受賞作品の展示の更新などを行い、運営を継続した。

2. 情報リテラシー事業

本年度は昨年度同様、コロナ禍のため、TEPIA先端技術館でのプログラミング等のリアルの各種講座や地方でのリアルのイベントの開催が困難であったが、一部の地域でのリアル開催やオンライン講座等を東京及び地方の参加者を対象に実施した。

(1) アウトリーチ事業（地方展開）

今年度は4地域でアウトリーチ事業を展開した。コロナ禍のため延期となっていた2地域（広島県福山市、長野県長野市）においては、プログラミング講座を実施した。福山市では市主催のイベントへ出展し、長野市では小学校で授業の一環として実施した。地元の自治体・教育機関等の協力のもと、感染対策を徹底した安全な運営となった。

その他2地域は、過去にアウトリーチ事業の開催実績がある福島県南相馬市において、地元団体主催のプログラミング体験講座等を昨年度同様に実施し、また愛媛県新居浜市では昨年出展したイベントにおいて、地元団体へ教材の貸し出し、レクチャーのサポートを行った。

① 長野県長野市

【実施日・実施場所】

2022年8月26日（金）1～6時限（8：50-15：25）

長野市長沼小学校

2019年に台風で浸水被害を受けた長野市立長沼小学校の全児童を対象に、4種類のプログラミングコンテンツを選出してイベントを行った。児童への指導は地元教育機関である長野工業高等専門学校の学生が担当した。

- ② 福島県南相馬市 ” ロボテス縁日 ロボット・ドローン大集合 “イベントへの出展

【実施日・場所】

2022年10月29日（土）～30日（日）

南相馬市 福島ロボットテストフィールド

地元主催の上記イベントにプログラミング講座を出展した。第3回目の出展となる今年度は初めてリアルで講座を開催した。（小型ドローン、キューブ型ロボットを用意。）参加者への指導はTEPIA職員が担当した。

- ③ 広島県福山市 “びんごキッズラボ” イベントへの出展

【実施日・場所】 2022年11月12日（土）エフピコアリーナ

広島県福山市主催の『びんごキッズラボ』内において、プログラミング体験講座を開催。5種類のプログラミング教材（キューブ型ロボット、小型ドローン、イモムシ型ロボット、組み立て型ロボット、球体型ロボット）の体験講座を実施。参加者への指導は、福山職業能力開発短期大学校、福山大学（大学院生含む）、福山平成大学、福山市立大学の4校の学生が担当し、学生同士の交流も図った。

- ④ 愛媛県新居浜市 “新居浜市まち・わざ・しごとフェス2022”への教材貸出・レクチャーサポート

【実施日・場所】 2022年11月20日（日）ワクリエ新居浜

昨年、出展した上記イベント内で、実施新居浜市の要請を受け、今年度は3種類のプログラミング教材（球体型ロボット、キューブ型ロボット、イモムシ型ロボット）を貸出し、また地元スタッフへのレクチャーや当日のサポート等を職員が現地で行った。

3. 顕彰・助成事業

- (1) キッズデザイン賞におけるTEPIA特別賞授与

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が毎年実施する「キッズデザ

イン賞表彰」(後援：経済産業省)において、“TEPIA特別賞”を本年も継続した。

- ・表彰式開催日(第16回キッズデザイン賞) 2022年9月29日
- ・TEPIA特別賞：「c o e m o」
(受賞者)株式会社タカラトミー

4. 先端技術などに関する映像情報サービス事業

(1) クリエイティブラボの活用

青少年がものづくりに興味を持ち、自由な発想で「ものづくり」ができる施設をめざしてクリエイティブラボは、昨年度に引き続き、2022年度は3Dプリンタ、レーザーカッター等を使用したオンライン講座を開催するとともに、夏休みは、特別講座として大学や企業の協力講座も含めた来館型の講座等を開催し、11月後半からはTEPIAオリジナルの来館型講座を開催した。また、将来的には青少年が実際にラボで工作等できるようにする計画であり、昨年度までにアナログの工作機器や工具等を揃え、それらを安全に活用できる環境等の整備をするために、他組織との協力等を検討した。

【オンライン講座 内容・実施日】

- ・2021年度末の春休みオンラインプログラム(カッコ内は2021年度)
 - ・「かんたん3Dモデリング」講座
2022年(3月29、30日)4月1、2日
 - ・「はじめてのプログラミング」講座
2022年(3月31日)4月3日
 - ・「かんたん3Dモデリング」
4月29日、5月1、3日、6月19、25日、7月3、31、8月7日

【来館型講座 内容・実施日】

- ・夏休みイベント
 - ・「レーザー加工機で迷路を作ろう！」 7月23日

- ・「ユカイな生きものロボットキットワークショップ」
7月28日（ユカイ工学株式会社 協力）
- ・「プログラミング しやくとり虫を歩かせてレースをしよう」
8月5日（株式会社スイッチエデュケーション 協力）
- ・「スイスイ走る！？ホバークラフト工作」
8月10日（東工大 science Techno 協力）
- ・「ロボットのプログラミング体験」
8月12日（お茶の水女子大学 サイエンスコミュニケーション
団体おちゃっこLab. 協力）
- ・「作って体感！～歯車の不思議～」
8月16日（東京大学 サイエンスコミュニケーションサークル
CAST 協力）
- ・「化学実験教室！～不思議な蓄光スライム～」
8月18日（東海大学 スチューデントアチーブメントセンター
サイエンスコミュニケーター 協力）
- ・「はじめてプログラミング」 11月20日
- ・「かんたん3Dモデリング」 11月26日、12月4日
- ・「レーザー加工機で迷路を作ろう！」 12月10日
- ・「はじめての電子工作」 2023年2月26日
- ・「時間わりをつくろう」 2023年3月26日（4月2日）
(カッコ内は2023年度)

(2) ビデオライブラリーの運営

本事業は、ロボットやAI、ものづくり、生物模倣技術などの先端技術に関するコンテンツなどを来館者やインターネットで配信するものであった。2019年度に館内での視聴サービスとともにインターネット配信もいったん終了したがコロナ禍におけるオンラインでの科学技術へのアクセスの確保の観点から2022年度末までインターネット配信のみ継続した。

(3) T E P I A 講演会等の開催

先端技術の動向や課題等の理解を目的に開催する T E P I A 講演会はコロナ禍の影響により開催を延期していたが、今年度は3年ぶりに以下のとおり開催した。

- ・開催日：2023年3月3日（金）
- ・東北大学大学院医学系研究科
細胞組織学分野 教授
出澤 真理 氏
- ・講演テーマ：M u s e 細胞がリードする医療変革と健康長寿社会の実現

5. 調査・広報事業等

(1) 先端技術ベンチャー企業等支援事業

(株)フューチャーパートナーズを通じたベンチャー企業等への支援に関しては、新たな投資は行わなかった。出資先のうち1社は東証マザーズへの上場を果たした一方で、1社は先行きの見通しが立たず、清算することとなった。また1社につき、事業継続等を条件に株式の売却を行った。

(2) 広報事業

T E P I A メールマガジンや T E P I A ウェブサイト、SNS 等にて各種情報の発信、および、全国・地方紙、通信社等、約300の各メディアに対しプレスリリースの配信等を行い、T E P I A 先端技術館および各々の事業活動の P R に努めた。

また、T V、W e b メディアの取材、港区の地域情報誌や修学旅行生向け旅行情報誌等の情報更新等を積極的に行い、8月には民放テレビ全国ネット放送にて放映され大きく取り上げられた。さらに、港区観光協会ホームページにて映像掲載（7月公開）等により集客に貢献した。

さらに、科学系展示館の全国的連合組織の国内研修では、2023年2月にオンライン形式で展示場見学ツアーを実施し、全国の加盟館に向けリニューアル後の T E P I A 先端技術館、およびアウトリーチ事業の紹介を

行った。港区等の地域の関係団体との交流を実施するとともに、各加盟組織の年次総会等に参加し、TEPIAに関する情報発信を行う等、全国の関係組織との連携を深めた。

6. TEPIA 館施設の賃貸

貸会場については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年間を通じて貸出を休止した。また、スポーツジム及びレストランの賃貸事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による賃貸先の減収に伴う一時賃料減免要望に応じた。

次年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に変化が無ければ、暫くは貸会場の貸出の休止が続くものと見込まれるが、新型コロナウイルス感染症拡大が終息した際には、顧客ニーズに対応した営業を展開し、施設の稼働率向上に努めるとともに、利用者の満足度向上・新規顧客の獲得を進め、営業基盤の拡充に努めるものとする。

以上